
ストライクウィッチャーズ ~少年将校空を翔ける~

IDファイター・R

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ストライクウェイツチーズ～少年将校空を翔ける～

【NZコード】

N5735Y

【作者名】

IDファイター・R

【あらすじ】

1939年、突如歐州にネウロイが来襲し第2次ネウロイ大戦が勃発した。

ネウロイに侵略される地域が増える中、人類はストライカーユニットを駆り空を舞う機械化装甲歩兵『ストライクウェイツチーズ』に望みを託す。

これは戦いの中で大事な人を失い、ただ『力』を追い求める少年の物語。

設定？（前書き）

いつも、IDファイター・Rです。
今作が処女作で、学校もあるため、更新が不定期になりがちですが
よろしくお願いします。

設定？

羽藤 一弥
うとう かずや

所属：扶桑皇國海軍遣欧艦隊第24航空戦隊第288航空隊（1939～）

第502統合戦闘航空団『BRAVE WITCHES』（1941～）

階級：軍曹（1939） 大尉（1941）

身長：173cm

年齢：18歳（1944年現在）

誕生日：4月28日

使い魔：甲斐犬

使用機材：富菱重工業 零式艦上戦闘脚二型甲 A6M3a

J5N十八式局地戦闘脚『天雷』

使用機材：MG42

モシンナガン M1891/30

扶桑刀

世界でも数えるほどしかいないといわれる男性ウイッチ、いわゆる『ウイザード』の一人。

幼い頃魔力を発現させ、父親が海軍の士官だったこともあり、海軍のウイッチ養成学校に唯一の男子生徒として入学。卒業後、遣欧艦隊の一員として当時、歐州の重要な拠点であつたリバウに派遣される。（この時、同部隊の上官であつた、坂本美緒少佐や竹井醇子大尉に戦闘技術を学んでいる。）

1940年、遣欧艦隊の上級士官だつた父親がネウロイとの戦闘で戦死。

その敵討ちなのだろうか、1941年のバルバロッサ作戦への参加

を志願。

大型ネウロイを12機撃墜する活躍をすると、モスクワ解放戦において敵のビームに当たり重傷を負う。

パーソナルマークは扶桑刀を2本、交差するように背負つた甲斐犬。

設定？（後書き）

どうだったでしょうか、オリジンの設定は……。
もしかしたら一部を変更する事もあるかもしれません。
……感想が不安ダナー。

第一話 ～北の国よつ浦息を込めて～（前書き）

どうもヒロア イター・Rです。

第一話、遅れてスイマセン。

ですが、皆さんに楽しく読んでもらえれば幸いです。

第一話 ～北の国より溜息を込めて～

オラーシャ帝国西部の港湾都市、ペテルブルク。市の中央に運河が縦横に巡っているため『北のヴェネツィア』ともいわれるこの街は、東部戦線における重要拠点の一つとされている。そんな極寒の街に、第502統合戦闘航空団『BRAVE WIT CHEES』はおかれていった。

第一話 ～北の国より溜息を込めて～

「ハア・・・・」

はつきり言つと、暇であった。

部隊はいつも通りに一日を過ごしている。

伯爵と管野とニッカはいつも通り正座をさせられ、その3人をエディータさんとアレクサン德拉大尉が叱り、それを見た定子とジョーゼットが苦笑いをして、隊長は……執務でもしてゐるのではないか？とにかく、部隊はいつも通りに動いていた。だが、私はいつも通りではない。

普段、カードゲームをしたり、共に銃器のメンテナンスをしたり、酒を飲みながら雑談をする相手……一弥がいない。

本国に召還されたなら仕方ないのだけれど……。

「どうしたんだい、アンナ？」

「伯爵……」

お説教が終わつたのか伯爵 ヴァルトルート・クルピンスキ

一中尉（本国では大尉）が話しかけてきた。

「することがなくてね……」

「ああ、一弥がいないからね」

さすがは伯爵だ。私を良く解っている。

「特別な任務なんだろ？仕方ないでしょ」「

「解つてるんだけどね……。いつも一緒にいると、意外と寂しいものでね」

「ははあ、まさか……恋かね？」

「そんなんじやないさ……」

ここで『違う！』とか言つたら負けだ。伯爵のペースに引きずり込まれる。

「チツ、さすがにアンナはダメか……」

予想通りだし……。

「何の話をしてるんですか？」

そこに同じ年コンビの定子とジョーゼットが来た。

「いやあ～、アンナに恋の相談をされてねえ～」

まだ諦めてないし……。

「ええつ！ア、アンナさん、好きな人がいるんですか！？」

定子とジョーゼットは伯爵のペースに引きずり込まれてしまつた……。

「だから、違うって。伯爵の冗談に決まって……」「

「ど、どんな人なんですか？」

「身長は？歳は？力、カッコイイですか！？」

信じてるし……。

「だから、一人とも……。私の話を聞いてくれよ……」

こうして、今日も502は通常運転。

……この後、出撃命令が出て、出撃した伯爵とニッカがストライカーをまた壊したことも含めてね。

それで、あれだ。結局最後に言いたいことは……、『一弥は何をしているんだろうか……』って事だ……。

それから、言い忘れたけど私はカールスラント第五十一戦闘航空団第7飛行中隊のアンメリース・グリストラフスキ大尉だ。よろしく頼むよ。

第一話 ～北の国より溜息を込めて～（後書き）

いかがだつたでしょうか、第一話。

オリキヤラのアンネリース大尉についての設定は後日投稿したいと思ひます。

そして、いまだに名前以外登場してない主人公・羽藤一弥ですが、次の第一話で登場します！お楽しみに！

……タイトルは先日見たガンダムΖの影響ですが反省は……しております、ハイ。

設定？（前書き）

いつもエロファイター・Rです。

初めにお詫びを申し上げなければなりません……。

前話の後書きで私は『主人公・羽藤一弥を次回』には出す』と言います。

しかし、愚かなワタクシは第一話を保存せずにタブを閉じてしまつたので御座います。

その事、どうかご容赦くださいませ。

今回は第一話の代わりとして前話に登場したアンメリース大尉の設定です。どうぞ。

設定？

アンネリース・グリスラフスキ（Annelies Grissela wski）

所属：カールスラント空軍第52戦闘航空団第7飛行中隊隊長
連合軍第502統合戦闘航空団『BRAVE WITCHES』

S『

階級：大尉

身長：175cm（一弥よりも高いことを気にしている。）

年齢：18歳（1944年現在）

誕生日：12月17日

使い魔：ポメラニアン

使用機材：フォッケウルフ190A-7

使用武器：モシンナガンM1891/30

カールスラントのエースパイロット。

常にクール、で同部隊のヴァルトルート・クルピングスキー中尉の[冗談も軽く受け流す。

固有魔法である『反射』を用いた変幻自在な射撃を得意とし、撃墜数133機を誇る。

軍に志願した当初はこれといった戦果をあげておらず、一時は軍を辞めようかと思っていたらしいが、1940年にJG52に配属され、現在も同部隊であるエディータ・ロスマン曹長から戦闘技術を学んだことを機に、撃墜数を伸ばしていった。

その後、鉄十字勲章を受章。1942年にはJG52第7中隊隊長の任に就いている。

扶桑皇国海軍の羽藤一弥大尉とは東部戦線にて知り合い、今では互

いを『戦友』と呼ぶ仲である。

また、ロスマン曹長の話によると、彼女は実家では弟一人＆妹一人の3人の姉で、彼らを溺愛しているらしい。

設定？（後書き）

どうでしょ？が、アンナさんは。

髪型は肩まで（俗に言ひミニティアム）ってどこでしょ？が……。
ご意見などが御座いましたら、よろしくお願いします。

……次は、次こそは主人公を出す！

第一話 ～久しぶりの故郷～（前書き）

いつも、H.Dイングアフアイター・Rです。
やつと投稿、第一話です。

今度こそ主人公が登場します。

それでは……、どうぞ。

第一話 ～久しぶりの故郷～

帰つて来たくはなかつた。

この国はアイツが好きな国だから。

アイツは祖国を……この国を愛している。
扶桑

だからこそ……、

俺はココがキライだ。

第二話 ～久しぶりの祖国～

横須賀軍港

。

扶桑皇國の主要な軍港の一つであり、俺達が今居るでもある。
だが、俺は今あまりいい氣分がない。
その理由は、祖國扶桑にもどる事にあまり氣乗りがしないことと、

「で、どうだつたんだよ、502は。ん？」

一緒に歩いているのが、やたらと人の事を詮索していくバカである、
といふことだ。

「おいおい、無視するなよ。久しぶりに会つたんだからさあ、もつ
と話さうぜ。ばつ」

「つるせー……。」

「つれないなあ、一弥は。昔つかひそうだよな。偶にしゃべつたと
思つたら、『黙れ』か『つるせい』の一択だもんな。」

「全く……せつかくノイエカールスラントでの武勇伝を聞かせてや
ろうと思つたのに」

「（こじこじいじいじ）」

あまりにひるむので忘れていたが、俺の横にいるこの男の名前は

宇都富顯うづみやけとひ。

整備兵をやつしているが、技術者も兼ねてやつており、かなり優秀ら
しいので、今までノイエカールスラントの技術省に派遣されていた
らしい……。

「おー、なんで伝聞口調なんだよ！お前、俺と親友だりついー。」

「さあ、何のことだ?」

「ひでえ……。」

横でバカが「やつさからバカバカ言いすぎだろ!」何か喋っているが聞かないことにする。

そもそも俺はバカと「お願い、バカって言わないで……」(涙目)^{じるめ}話すために横須賀まで来た

わけじゃない。

「で、そのストライカーとやらは何処にあるんだ?」

「やつど話じでぐれだ……」(号泣)。

「おい……。」

なんとか泣きやんだ顕三に案内してもらい、とある格納庫に辿り着いた。

そこに居た整備兵に顯三が話しかけ、幾らか話した後、中に案内される。
そこに有つたのは……。

「これが……。」

「おう、これこそが最新鋭の技術を集めて造られた、お前のワンオフ機。その名も……。」

『閃電』

。

それが俺の新しい翼の名前だった。

「いやー、苦労したぜ。扶桑のエンジンじゃお前の魔力を受け止めきれねえからな。カールスラントに諂つて、向こうの最新のエンジンの技術を提供してもらつたんだ。まあ、向こうの上層部が許してくれるわけもなく、ガランド少将にお願いして、俺がノイエベルリ

ンに滞在する条件で……」

顯三が何か言つてゐるが俺の耳にはほとんど入つてない。
それほど閃電に魅了されていた。

「最高だ……。」

「えつ？」

「最高だ、この機体……。感謝するぞ顯三」

「……、あつ、ああ、まあお前のためだしな……」

俺が礼を言つたことに驚いたのか、少ししてから顯三が返事をする。
……俺は礼も言わないよつた奴、と思われているのか？

「そうかいそうかい、こっちも頑張ったかいがあるつてもんだ。」

「これから閃電はどうするんだ？」

「ああ、少し調整をしてから輸送機に積み込む予定だ。」

「調整には俺も立ち会わないといけないからな。お前はそちら辺を
ぶらついてこいよ。」

「いいのか？」

「おう、構わないぜ。」

「そつか……。ならばそういうふうか。」

俺は顯三と別れて、付近を散歩することにした。

俺は横須賀の軍港を散歩した。

ずっと歐州にいたせいだろうか。故郷の海は美しかった。

海に見入っていた時だ。

「つと……」

突然、少女がぶつかってきた。

「あ、す、すいません！」

服装からして女学生だろうか。少女は謝罪を述べるとすぐに走り去ってしまった。

「何だつたんだ……。」

この時も俺は想像もしなかつただろう。

自分と彼女が再び出会い、共に戦うことになる事を……。

第一話 ～久しぶりの故郷～（後書き）

私思つんです。

『ぶつかる』つていうイベントつてとっても重要なんじゃないかって。

……とか言いながら、先日、下校途中に婦人どぶつかつてしまつたワタクシ。

ええ、ぶつかるのはやっぱ『美少女』に限るんですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5735y/>

ストライクウィッチーズ～少年将校空を翔ける～

2011年11月23日18時51分発行